

～澄んだ歌声に拍手～
四国中央少年少女合唱団

3/9 (日)



土居文化会館ユーホールで四国中央少年少女合唱団第45回定期演奏会が開催されました。小学1年生から中学3年生で構成された合唱団の子どもたちは、日頃の練習の成果を發揮して熱唱していました。訪れた観客は、子どもたちの澄んだ歌声に、惜しめない拍手を送っていました。

～愛媛のふるさとグルメが大集結～
愛媛のご当地ぐるめぐり

3/16 (日)



伊予三島運動公園及び同体育館で、愛媛のご当地ぐるめぐり in しこちゅ～が開催されました。県内のふるさとグルメ12品が大集結！県外ゲストとして、あの有名な横手焼きそばなども参加してイベントを盛り上げました。訪れた来場者は、出店された数々のグルメを食べて、その美味しさに笑みがこぼれていました。

～5月には見頃に～
ボランティアがツツジを植栽

3/8 (土)



三島公園で、市民が訪れて花を楽しめるようにと約900本のツツジが植えられました。これは、平成21年から毎年、市三島観光協会と公益財団法人愛媛の森林基金が本市にツツジの苗木を寄贈して行われており、植栽には、同観光協会会員のほか市民団体、市内の企業関係者ら約150人のボランティアが参加しました。

～盤上での熱い戦い～

市長杯朝日S-1グランプリ2014

3/9 (日)



土居文化会館ユーホールで市長杯朝日S-1グランプリが開催されました。大会は一般の部3クラス、中学生以下の部4クラスに分かれて、アマチュア棋士約170人が熱戦を繰り広げました。最上級のS-1の部では、岡山市の植田吉則さんが優勝しました。また、午後からはプロ棋士による指導対局も行われました。

～震災から3年前に～
映画「先祖になる」&トークショー

2/23 (日)



福祉会館で、ドキュメンタリー映画「先祖になる」の上映会と、出演者らによるトークショーが開催されました。映画上映後、映画に出演した佐藤直志さんと菅野剛さんらによるトークショーが開催され、会場に集まったおよそ400人の観客は、2人が語る暮らしの再生や復興への思いにじっと耳を傾けていました。

～緊急消防救助のために～

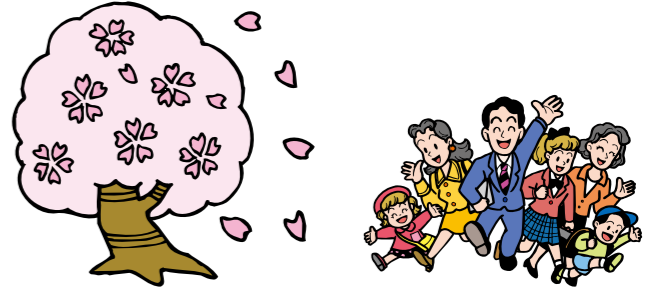
水槽付消防ポンプ自動車を更新

3/1 (土)



市消防本部本署に災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車2型を配備しました。この車両は、水槽(2,000リットル)を積載して迅速に放水作業を行うことができ、圧縮空気泡消火装置を装備し、消火効率を向上することができます。また、大規模災害や広域災害に対応する緊急消防援助隊登録車両となっています。

まちの話題
TOWN TOPICS



～より良い乳牛を目指して～

四国中央市乳牛改良共進会

2/20 (木)



土居町蕪崎のうま農協アグリセンターで、第38回四国中央市乳牛改良共進会が開催されました。これは、乳牛の品評を行い、生産性の高い乳牛の育成・改良を推進し酪農業の経営安定と乳質の向上を目指すもので、新居宇摩酪農経営者協議会会員ら(西条市・新居浜市・本市)から合計31頭が出品されました。

～ふるさとを愛する気持ちを込めて～
ふるさとCM大賞えひめ'14が開催

2/23 (日)



松山市総合コミュニティセンターで、愛媛朝日テレビによるふるさとCM大賞えひめ'14の審査会が行われました。これは、わが町自慢を30秒CMで競う映像の祭典で、今年9回目の開催となります。本市からは、四国中央市民DCの「幸せに出会う街」、四中10年CM組の「でっかく書こうぜ!!」と題した2作品のCMを出品しました。審査会に参加したみなさんは舞台上で、CM作品のパフォーマンスを披露し、司会たむらけんじさんのインタビューに楽しく受け答えしました。また、本市のマスコットキャラクター「しこちゅ～」も応援に駆けつけ、場を盛り上げました。出品作品は、愛媛朝日テレビのCMで年間5回程度放送される予定です。

市長のひとりごと



四国中央市長
篠原 実
テーマ
春・4月

4月という季節は、大変複雑なものを一杯抱えた春であると思っている。それは、進学、就職、異動、退職などもあつたりして、多くの人は生活環境が変化している。そんな場合は、大抵家族をも巻き込んでいっている。また、季節そのものも、寒い日があったり、夏を思わせる暑い日もある。夢、期待一杯の人もいれば、散って行く桜に自分の人生を、もの哀しく感じる人もいるかも知れない。

私自身は、4月という月は、あまり好きではない。なんか振り返っても、落ち着かないのである。初めて家族と離れて、3畳一間の下宿で言いようのない寂しさに襲われた学生生活第一歩の夜を、今も思い出し、予期しなかった自分の感情に信じられない思いであった。

先日、夜中に目が覚めて、枕元にあった太宰治の「人間失格」を朝まで読み直してみた。未だ太宰の著作が、若い人にも読まれているのがわかったような気がした。心の中をぐるぐる焦燥感と生への不安である。確かに人間失格であるが、破壊型の人への共感もあるのだから。

テレビで、木村拓哉と檀れいの「武士の一分」という映画をしていた。何度か観ていると思うが、夫婦愛というより恋愛ドラマである。それでも、つまらないトーク番組よりいい。それは、藤沢周平と山田洋次のシナリオの力だと思つた。

胸と背中、人は一杯、いろんな事を抱えて生きている。そんなことを、4月は思い知らされてくれる。そう思うと、「4月もまんざらでもないかな!」なんて思ったりもする。